

景観重要建造物指定状況

第1号 寺川家土蔵

所在地	宇治市宇治壺番40番地
対象建造物	土蔵（旧茶工場）
建造物概要	2階建ての土蔵造り 屋根：切妻本瓦葺 外壁：白漆喰・焼杉板貼り
指定年月日	平成31年3月28日



特徴	宇治茶の産地として名高い宇治の市街地である中宇治地区の三角街区に残る唯一の茶園と、かつて茶工場として利用されていた土蔵が一体となり存在していることが、本市の伝統産業である茶業が生業として継承されていることを象徴しており、本市の歴史と文化を伝える景観として非常に高く評価され、この土蔵が茶園越しに望見され、茶の緑とのコントラストが非常に美しい景観を形成している。
----	--

第2号 昇苑くみひも宇治本店

所在地	宇治市宇治妙楽146
対象建造物	店舗
建造物概要	木造2階建て 屋根：切妻造平入和瓦葺 外壁：白漆喰・杉板貼り
指定年月日	令和3年5月11日



特徴	本建物は昭和6年に料理屋として建築され、何度かの増改築を経ながらも、昭和初期の宇治の町家の姿を今に残す貴重な建物であり、平安時代から続く伍町通りに面して立地しており、周辺には昭和初期以前に建てられた伝統的な家屋がまだ残っている。周辺の良い景観を維持していくうえで、本建物は1つの良いモデルとなる。
----	--

第3号 共栄製茶株式会社 宇治森半店、森下家

所在地 宇治市小倉町久保 80 番地ほか
対象建造物 宇治森半店 店舗・蔵
森下家 母屋・離れ
建造物概要 木造2階建て
屋根：切妻造瓦葺ほか
外壁：漆喰塗、杉板貼・焼杉貼
指定年月日 令和4年3月16日



特徴 敷地は、茶の製造卸業が集積し巨椋神社を擁する小倉村旧集落の大和街道沿い西側に面し、1836年（天保7年）に創業した森半製茶所が、今も代々の暮らし・地域の伝統を受け継ぎつつ本建造物を活用した新事業展開をも重ねてきている。外観は、茶農家から茶商への転換・変遷期の特徴と、巨椋神社の祭礼のための表構えが残されている。旧街道沿いの歴史的町並み、通り景観、茶に関わる生業と暮らしの風景と、総合性ある景観を形成している。

第4号 清水家住宅

所在地	宇治市宇治妙楽150
対象建造物	主屋・表門等8棟
建造物概要	木造2階建て切妻造平入 など
指定年月日	令和7年2月5日

正面外観



中庭



特徴 長屋門から入ると直線的なアプローチが奥へと続き、その東西に合理的な建築配置がみられる。屋敷地東側には焙炉小屋（現存せず）、茶蔵、米蔵と茶生産に関連する建物が手前から奥に向かって整然と配置されており、茶生産のあり様を窺い知ることができる。

一方、屋敷地西側には、奥主屋、その手前に焙炉師の宿泊施設であった離れといった生活に関連する建物があり、茶摘みの時期には多くの焙炉師が作業をしていたことが分かる。洋館や茶室といった商談やおもてなしに活用された建物も配置されており、屋敷地西側は生活と商いの場として利用されていたことがわかる。主屋と茶室・洋館の間には小規模ながらよく造られた庭があり、茶室を一段高く築山上に建てることで立体的な空間を造り、3つの建物から異なる角度高さから庭が眺められるよう計算されている。このように、目的に応じて大規模な敷地を茶生産の場と生活・商いの場に合理的に構成して活用していた様子が現在にも伝わっている。